

令和5年11月14日
第3回青森県がん対策推進協議会

資料3

第四期青森県がん対策推進計画（素案） 概要

基本方針等

参考資料1(素案)
p.2-5 参照

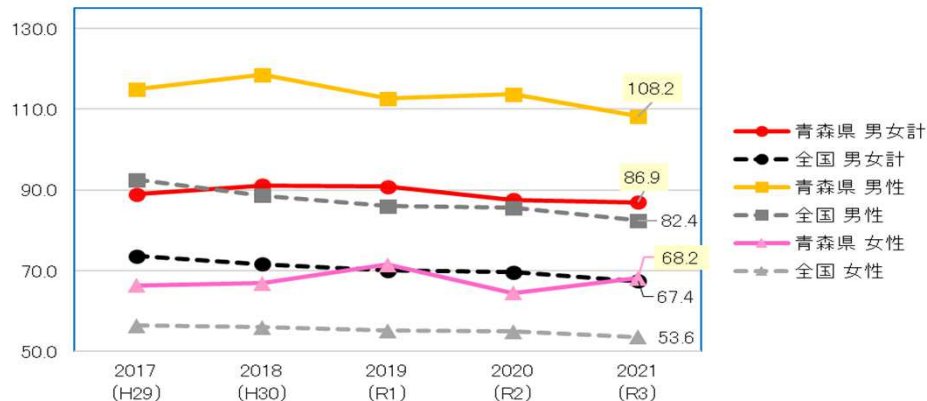
計画の位置づけ等

- 本計画は、本県のがん対策の基本方針で、がん対策に取り組むための基本指針
- 令和5年3月に国が策定した「第4期がん対策推進基本計画」を踏まえた見直しを実施
- 第8次青森県保健医療計画、第三次青森県健康増進計画等と調和を保ち連携しつつ、本県のがん対策を推進
- 計画期間 令和6年度～令和11年度(6年間)

計画見直しの趣旨（現状と課題）

<現状>

- がんの75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)は、着実に減少しているものの、死亡率の更なる改善を図る必要



- 本県のがん検診受診率は向上しており、5大がんのうち、胃がん、大腸がん、肺がんは全国平均を上回る

区分	男性		女性	
	青森県	全国	青森県	全国
胃がん	49.6%	47.5%	41.1%	36.5%
大腸がん	53.5%	49.1%	48.7%	42.8%
肺がん	57.0%	53.2%	53.6%	46.4%
乳がん	—	—	47.1%	47.4%
子宮頸がん	—	—	43.6%	43.6%

<課題>

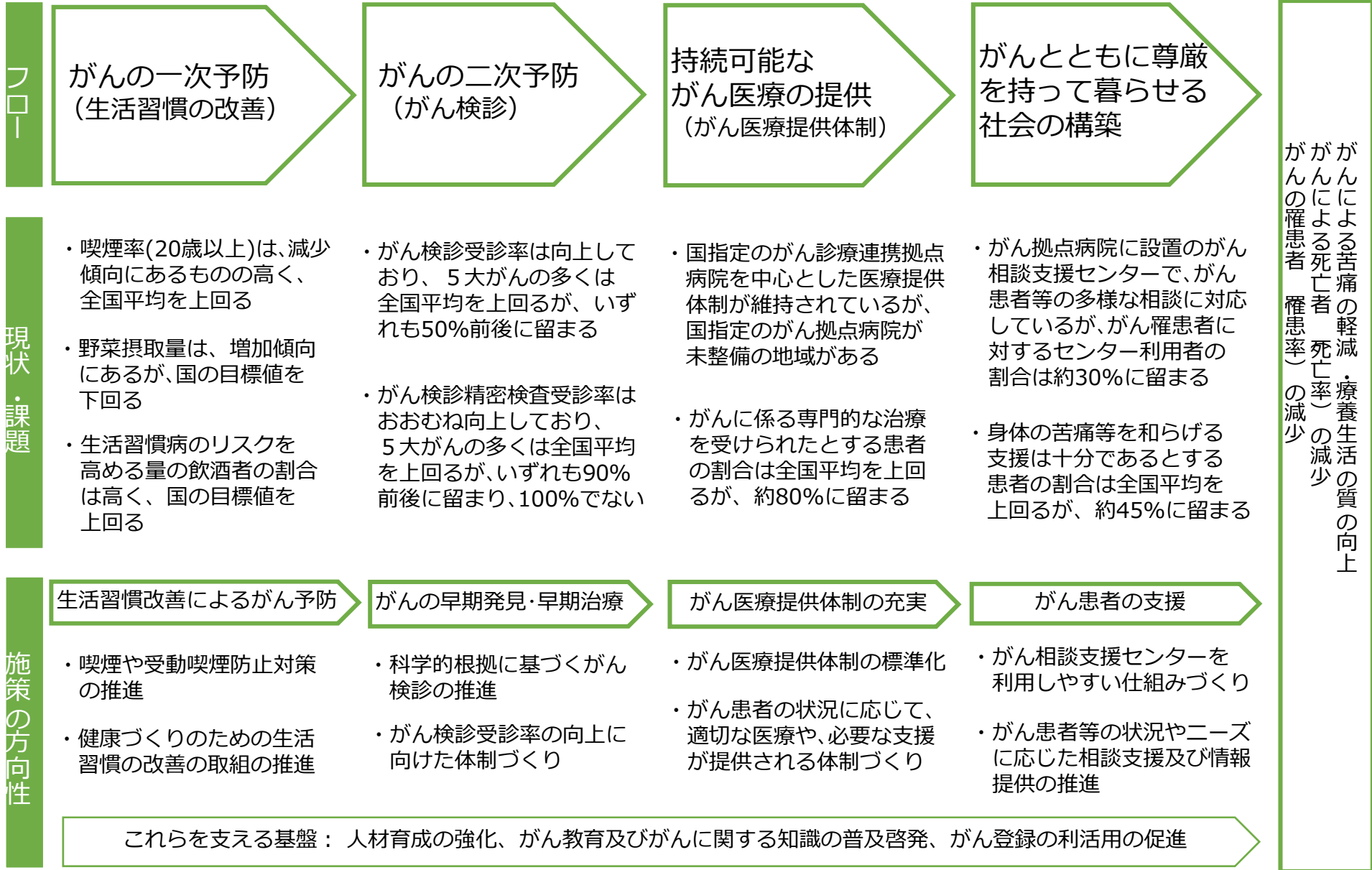
- がんの一次予防として、喫煙・受動喫煙防止対策や運動・食生活などの生活習慣の改善が必要
- がんの二次予防として、科学的根拠に基づくがん検診による早期発見・早期治療の促進、その精度管理の向上が重要
- がん医療提供体制として、各医療圏で標準的ながん医療を受けられる体制の維持が重要
- がんになっても尊厳を持って暮らせる社会の構築のため、がん患者等に対する必要な相談支援や正確な情報にアクセスできる環境整備が重要

進行管理と評価

- 施策の評価に当たっては、第4期国計画の指針に沿って、各目標項目と施策の関連性を明確化したロジックモデルを活用
- 目標項目をはじめとした本計画による対策の進捗状況等の現状を把握し、適時に県協議会に報告
- 計画策定から3年を目途に中間評価を実施

施策体系フロー

〔 参考資料 1 (素案)
p.5 参照 〕



分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.6-7 参照 〕

1 がんの一次予防(生活習慣の改善)の推進

○ がんの一次予防

現状と課題

<現状>

本県のがんによる75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)は、おおむね改善傾向にあるものの、全国平均を上回る(令和3年 本県86.9 全国67.4)

<課題>

○がんの一次予防

- ・ 予防可能ながんのリスク因子である生活習慣のうち特に喫煙は、種々のがんに大きく寄与する原因であるため、喫煙・受動喫煙防止対策に積極的に取り組むことが重要
- ・ 運動や食生活などの生活習慣の改善については、第三次青森県健康増進計画と整合性を図りながら取組を進めることが必要
- ・ また、肝がんに関連する肝炎ウイルスや、子宮頸がんに関連するヒトパピローマウイルス(HPV)等、感染に起因するがんに関する県民の理解を深め、がんの発症予防に努めることが重要

施策の方向性

【目的】 がんの罹患者(罹患率)の減少

- 第三次青森県健康増進計画と整合性を図ったがんの一次予防対策の推進

① 喫煙・受動喫煙防止対策の周知啓発

- 〔県〕・ 喫煙が健康に及ぼす影響に関する知識の普及啓発
- ・ 県受動喫煙防止条例の理解促進、禁煙支援等

② 健康づくりのための生活習慣の改善

- 〔県〕 県健康増進計画に基づく健康づくりの推進
(飲酒、身体活動・運動、肥満、食生活の改善等)

③ 感染に起因するがんの予防

- 〔県、市町村〕
- ・ 肝炎ウイルス検査の実施や普及啓発
 - ・ ウイルス性肝炎治療に係る医療費助成等
 - ・ 子宮頸がん予防についての理解促進
 - ・ HPVワクチン接種の普及啓発

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.7-9 参照 〕

2 がんの二次予防(科学的根拠に基づくがん検診)の促進

○ がんの二次予防(がん検診)

現状と課題

<現状>

- がんによる75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)は、おおむね改善傾向にあるが、全国平均を上回る
- 県において策定した「青森県におけるがん検診事業の実施に関する要綱」に沿った、科学的根拠に基づくがん検診の実施が進んでいる
- 本県のがん検診受診率は向上しており、胃がん、大腸がん、肺がんについては全国平均を上回る

<課題>

○がんの二次予防

- ・ 科学的根拠に基づくがん検診による早期発見・早期治療の促進や、その精度管理の向上が重要
- ・ 関係者の共通認識の下、県民に対し科学的根拠に基づく適切ながん検診事業を提供することが必要
- ・ 40代から50代にかけての働く世代のがん死亡率が高いことや、国計画の検診受診率の目標が60%に上がったことを踏まえ、更なる受診率向上に取り組むことが必要
- ・ 検診受診率が全国を下回る乳がんや、子宮頸がんの女性特有がんについては、受診率向上を図るための取組が必要

施策の方向性

【目的】 がんによる死亡者(死亡率)の減少

- がん検診受診率等の向上によるがんの二次予防対策の推進

①科学的根拠に基づくがん検診の推進

〔県、市町村、検診実施機関、事業所など〕

- ・ 県内で科学的根拠に基づくがん検診が、適切な精度管理の下で実施されるよう、県要綱の理解促進
- ・ 検診実施者による検診の質の向上やばらつきの解消
- ・ 市町村や事業所で、科学的根拠に基づく検診が提供される環境づくりを促進

②科学的根拠に基づくがん検診の質の向上

〔県、市町村、検診実施機関、大学等、事業所など〕

- 科学的根拠に基づくがん検診を適切な精度管理の下で実施

③がん検診受診率の向上に向けた体制づくり

〔県、市町村、検診実施機関、医師会、事業所など〕

- ・ 県民ががん検診を継続して受診できるよう、正しい情報発信や受診しやすい環境を整備
- ・ 精密検査受診率の向上に向けた必要な情報提供の実施や効果的な対策を検討

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.9-10 参照 〕

3 持続可能ながん医療の提供

(1)がん医療提供体制 ①がん医療提供体制の維持

現状と課題

<現状>

本県では、国指定のがん拠点病院や、県指定の「がん診療連携推進病院」などの医療機関による機能分担と連携により、がん医療の提供体制が構築

<課題>

広い県土を有する本県において、各二次保健医療圏で、がんの標準医療を受けられる体制の維持を図ることが重要

施策の方向性

○ がん医療提供体制の維持

① 全ての二次保健医療圏に国が指定するがん拠点病院の整備

〔県、市町村、医療機関、がん拠点病院〕

- ・ 各二次保健医療圏でがんの標準医療を受けられる医療提供体制や、全県的な地域連携体制を維持
- ・ 西北五圏域における国指定のがん拠点病院の整備に向けた取組の継続
- ・ 県がん診療連携協議会の活用により、地域におけるがん診療の連携体制を維持

② がん診療に関わる医療従事者に係る取組の支援

〔県〕がん拠点病院において実施する、がん診療や連携体制構築のための取組を支援

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.11 参照 〕

3 持続可能ながん医療の提供

(1)がん医療提供体制 ②手術療法・放射線療法・薬物療法の提供

現状と課題

<現状>

がん拠点病院を中心とし、がんの種類や病態に応じた治療を提供

<課題>

がん患者の状況に応じた療法を確実に提供するため、適切な実施体制や連携体制の維持が必要

施策の方向性

- 各種療法の適切な実施体制の維持

〔がん拠点病院〕

がん患者がそれぞれの状況に応じた適切な療法を受けられるよう、医療機関の役割分担を含めた連携体制を維持

(1)がん医療提供体制 ③チーム医療の推進

現状と課題

<現状>

がん拠点病院では、緩和ケアを含む多職種によるチーム医療を提供

<課題>

がん患者やその家族の様々な苦痛や悩み、負担に応えるため、多職種によるチーム医療の更なる推進が必要

施策の方向性

- 多職種によるチーム医療の推進

〔がん拠点病院〕

多職種連携を更に推進するため、院内のチーム医療の提供体制と、地域の医療機関との連携体制を整備

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.11-12 参照 〕

3 持続可能ながん医療の提供

(1)がん医療提供体制 ④がんのリハビリテーション

現状と課題

<現状>

がん拠点病院では、がんのリハビリテーションに携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の配置が進む

<課題>

がん治療の影響で嚥下や呼吸運動等に障害が生じたがん患者に対し、リハビリテーションの提供体制の整備が重要

施策の方向性

- リハビリテーション提供体制の整備の推進

〔県、がん拠点病院〕

引き続き、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等を含む、専門的な知識及び技能を有する医療従事者の配置など、がん拠点病院における効果的・継続的ながんのリハビリテーション提供体制の整備を推進

(1)がん医療提供体制 ⑤がんと診断された時からの緩和ケアの推進

現状と課題

<現状>

- がん拠点病院では、緩和ケアチームや緩和ケア外来が設置され、専門的な緩和ケア提供体制を整備
- 緩和ケア研修の累計修了者は着実に増加

<課題>

県内における専門的な緩和ケア提供体制や、緩和ケア研修の推進が必要

施策の方向性

- 緩和ケア提供体制の整備、緩和ケア研修の推進

〔県、がん拠点病院〕

- ・ 引き続き、地域におけるがん診療や在宅医療に携わる医療機関等と連携し、専門的な疼痛治療を含む緩和ケアに係る普及啓発や実施体制を整備
- ・ がん医療に携わる医療従事者が、基本的な緩和ケアを実践し、その知識や技能を維持・向上できるよう、緩和ケア研修会を推進

分野別施策の方向性

〔 参考資料1(素案)
p.12-13 参照 〕

3 持続可能ながん医療の提供

(1)がん医療提供体制 ⑥妊よう性温存療法

現状と課題

<現状>

- 若いがん患者等が、妊よう性温存療法及び温存後生殖補助医療による経済的負担を軽減する制度を活用し、累計対象者数は着実に増加
- がん拠点病院や関係医療機関は、県のがん・生殖医療ネットワークに参画し、妊よう性温存療法等に関する情報提供及び意思決定支援を行う体制を整備

<課題>

がん患者の状況に応じて、妊よう性温存療法等に関する情報提供や意思決定の支援が適切に行われるよう、実施体制の更なる推進が必要

施策の方向性

○実施体制の更なる推進

〔県〕 将来子どもを産み育てることを望む若いがん患者等に対し、妊よう性温存療法等に要する費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図るなどの支援を実施

〔県、がん拠点病院〕

がん医療等の関係医療機関との連携ネットワーク体制を構築し、妊よう性温存療法等に関する医療機関等の理解促進を図り、県内で円滑に妊よう性温存療法等が受けられる体制づくりを推進

(1)がん医療提供体制 ⑦がんゲノム医療

現状と課題

<現状>

本県では、地域におけるがんゲノム医療の中核となる、国指定の「がんゲノム医療拠点病院」を1施設、国公表の「がんゲノム医療連携病院」を1施設設置

<課題>

がんゲノム医療の提供体制について、必要とするがん患者がゲノム医療を受けられる体制構築のあり方についての検討が必要

施策の方向性

○がんゲノム医療提供体制の検討

〔県、がんゲノム拠点病院等〕

国の検討状況や取組を踏まえ、がんゲノム医療に係る医療提供体制や、県民の理解を促進するための普及啓発について検討

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.13-14 参照 〕

3 持続可能ながん医療の提供

(2) 小児がん及び若い世代のがん対策

現状と課題

<現状>

がん拠点病院や小児がん拠点病院等との連携を図り、若い世代のがん患者が適切な医療や支援につながるよう、情報を提供

<課題>

小児がん患者及び若い世代のがん患者やその家族が、必要な情報にアクセスし、そこから適切な支援や治療につながる体制の整備を図ることが必要

施策の方向性

○ 情報提供や連携体制の推進

〔県、がん拠点病院〕

- ・「がん情報サービス」等を活用し、小児がんや若い世代のがんに関する情報を提供
- ・国の検討状況や取組を踏まえ、小児がん及び若い世代のがん患者等が、適切な情報を得て、悩みを相談できる支援につながり、適切な治療や長期フォローアップを受けられる体制づくりを推進
- ・引き続き、地域ブロックの小児がん医療提供体制協議会に参画し、関係医療機関との情報共有や連携を推進

(3) 希少がん及び難治性がん対策

現状と課題

<現状>

希少がんに対応できる病院と、がん拠点病院や小児がん拠点病院等との連携を図り、患者が適切な医療につながられるよう、情報を提供

<課題>

希少がん患者及び難治性がん患者が、必要な情報にアクセスでき、そこから速やかに適切な医療につながる体制の整備を図ることが必要

施策の方向性

○ 情報提供や連携体制の推進

〔県〕

- ・国における検討状況や取組を踏まえ、がん拠点病院での診療実績や、医療機関の連携体制等について、患者等の目線に立った分かりやすい情報提供を推進

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.14-15 参照 〕

4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

(1) 相談支援及び情報提供

現状と課題

<現状>

- ・ がん拠点病院にがん相談支援センターを設置し、がん患者やその家族等の精神心理的・社会的な悩みなど様々な相談に対応
- ・ がん患者が必要に応じて支援を受けられるよう、がん相談支援センターについての説明・広報を実施
- ・ がん患者への相談支援や情報提供の充実のため、ピア・サポーターの養成を推進
- ・ 「がん情報サービス」等を用いて、がんに関する幅広い情報を提供

<課題>

- ・ がん患者やその家族に対する必要な相談支援や正確な情報の提供が重要
- ・ 患者の療養生活の多様化や相談ニーズを踏まえ、質の高い持続可能な相談支援体制の整備が必要
- ・ がん患者が必要に応じ確実に支援を受けられるよう、相談支援センターへのアクセスの強化が必要
- ・ ピア・サポーター養成のほか、ピア・サポート活動の質の担保や活用の促進が必要
- ・ がん患者等が、必要な、正しい情報に確実にアクセスできる環境を整備することが重要

施策の方向性

○相談支援体制や情報提供等の推進

〔県、がん拠点病院〕

- ・ 国の検討状況を踏まえ、相談しやすい仕組みづくりなど、効率的・効果的な相談支援体制のあり方について検討
- ・ がん相談支援センターの認知度向上や、その役割の理解促進の取組を実施
- ・ 県民が必要な時に正しい情報を入手し、適切な選択ができるよう、情報ツールとして「がん情報サービス」の認知度向上を図るほか、「がん情報サービス」やホームページ等を活用した情報の提供

〔県、市町村、医療機関、患者団体〕

- ・ 相談支援の質の向上を図るため、がん相談支援に携わる者に対する研修会への参加を支援
- ・ 相談支援の一層の充実を図るため、患者団体等を活用した仕組みづくりや、ピア・サポーターの活動促進と養成

分野別施策の方向性

参考資料 1 (素案)
p.15 参照

4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

(2) 医療介護連携に基づく緩和ケア等のがん対策・がん患者支援

現状と課題

<現状>

がん拠点病院は、切れ目のないがん医療を提供するため、地域の医療・介護従事者と医療提供体制や社会的支援のあり方について情報共有し、役割分担や支援等について議論する場を設置

<課題>

地域における、医療従事者等とがん患者やその家族とのコミュニケーションにより、患者がその療養場所にかかわらず、質の高いがん医療や緩和ケア等の支援を受けることができる体制づくりが重要

施策の方向性

○地域における連携体制の推進

[がん拠点病院]

- ・ 地域の実情に応じた患者支援体制の構築のため、県がん診療連携協議会において、セカンドオピニオンを受けられる医療機関や、緩和ケア及び在宅医療等へのアクセスに関する情報提供のあり方について検討
- ・ 地域包括ケアシステムの仕組みも踏まえつつ、地域の実情に応じて、介護事業所や薬局等の地域の関係機関との連携を推進

分野別施策の方向性

参考資料1(素案)
p.15-16 参照

4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

(3) がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援)

① 就労支援

現状と課題

<現状>

- がん医療の進歩によって、治療を継続しながら社会を送るがん患者が増加
- 国において、がん患者が治療と仕事を両立できるよう、ガイドラインを作成するなど、就労支援を実施

<課題>

- がんになっても就労できる社会の構築が重要
- 40代から50代のがん患者の離職防止や再就職のための就労支援が必要

② アピアランスケア

現状と課題

<現状>

- がん医療の進歩によって、治療を継続しながら社会を送るがん患者が増加
- がん拠点病院のがん相談支援センターにおいて、がんの診断から治療、その後の療養生活、社会復帰といった生活全般にわたる相談に対応

<課題>

国において、アピアランスケアの充実に向け、がん拠点病院を中心としたアピアランスケアに係る相談支援や情報提供体制の構築について検討が必要

施策の方向性

- 地域における就労支援の推進

[県] 関係医療機関や公共職業安定所の協力の下、各種広報や「がん情報サービス」等を活用することにより、がん患者に対する治療と職業生活の両立支援について周知
[事業所] 職場における治療と仕事の両立支援のための体制整備や理解促進の取組を実施
[医療機関] がん患者と事業所における治療と仕事の両立へ向けた調整に役立つよう、治療開始前に必要な支援についての説明を実施

施策の方向性

- 相談支援体制の構築等

[がん拠点病院] 引き続き、がん相談支援センターにおいて、アピアランスケアを含めたがんに関わる相談全般に対応
[県] がん患者が罹患前と同様に、不安なく治療ができる環境づくりのため、がん患者へのアピアランス支援等に関して医療用ウィッグ及び乳房補正具の購入費に対する助成制度を設けるよう、国に対し要望

4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

(3) がん患者等の社会的な問題への対策(サバイバーシップ支援)

③ がん診断後の自殺対策

現状と課題

<現状>

- がん診断後のがん患者の自殺リスクは高く、がん対策における重要な課題
- がん拠点病院において、がん患者の自殺リスクへの対応方法や関係機関との連携についての共通フローの作成、関係職種に情報共有を行う体制の構築、地域の医療機関との連携体制が確保されている

<課題>

医療従事者等により自殺リスクの高い患者への適切な支援が行われる体制の整備が必要

施策の方向性

○ 支援体制の整備

[がん拠点病院]

がん患者の自殺リスクに対する対応方法や関係機関との連携についての共通フローの作成、関係職種に情報共有を行う体制の構築、自施設に精神科等がない場合の地域の医療機関との連携体制の整備

[県] 国における検討状況を踏まえ、必要な対応について検討

4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

(4) ライフステージに応じた療養環境への支援

現状と課題

<現状>

- 小児や若い世代のがんは、他の世代に比べて患者数が少なく、疾患構成も多様
- 高齢のがん患者については、認知症の進行や日常生活の支援を要するなど、身体的な状況や社会的背景などが多様

<課題>

がんによって、個々のライフステージごとに、異なる身体的、精神心理的、社会的な問題が生じることから、ライフステージに応じたがん対策を講じることが必要

施策の方向性

○ ライフステージに応じたがん対策

[県]

- ・ 「がん情報サービス」等を活用し、小児や若い世代のがんに関する情報を提供
- ・ 国の検討状況や取組を踏まえ、小児や若い世代のがん経験者が切れ目なく診療や長期フォローアップを受けられる体制や、高齢のがん患者の意思決定の支援についての体制整備について検討

[がん拠点病院]

高齢のがん患者に対する支援の充実のため、地域の医療機関やかかりつけ医、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所等の医療・介護を担う機関等と連携し、患者やその家族等の療養生活を支えるための体制の整備について検討

分野別施策の方向性

参考資料1(素案)
p.17-18 参照

5 これらを支える基盤の整備

(1) 人材育成の強化

現状と課題

<現状>

がん医療現場での人員不足や、がん医療を担う人材の育成を行う医療機関の特性等により、各二次保健医療圏においてがんの標準医療を提供できる体制の維持に悪影響を及ぼすおそれがある

<課題>

がん医療に関する知識や技能を有する医療従事者を養成していくことが必要

施策の方向性

○ がん医療を支える医療従事者の養成

[がん拠点病院]

- ・ 地域のがん医療や緩和ケア等を担う人材を養成

[医療従事者養成機関・団体等]

- ・ がん医療従事者を養成
- ・ がん関係分野の認定看護師資格取得の促進に向けて取り組むとともに、がん専門看護師の養成を推進

(2) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発

現状と課題

<現状>

市町村や事業所等による、喫煙や食生活、運動習慣等の生活習慣の改善をはじめとしたがん予防の正しい知識の普及に加え、民間団体等による普及啓発活動や、学校での健康教育を実施

<課題>

- ・ 県民が、がん予防や、科学的根拠に基づくがん検診による早期発見・早期治療の重要性など、がんについての理解促進を図ることが必要
- ・ 医師やがん患者等の外部講師を活用し、子どもに、がんに関する基本的な情報を伝えることが重要

施策の方向性

○ がんに関する知識の普及啓発

[事業所、医療保険者]

- ・ 雇用者や被雇用者・被扶養者が、がんに関する正しい知識を得る機会を提供

[県、市町村]

- ・ 国の必要な支援を受け、教育委員会と連携し、医師会や患者団体等の関係団体と協力するとともに、学校医やがん医療に携わる医師、がん患者・経験者等の外部講師を活用しながら、がん教育を実施

分野別施策の方向性

〔 参考資料 1 (素案)
p.18-19 参照 〕

5 これらを支える基盤の整備

(3) がん登録の利活用の推進

現状と課題

<現状>

- 本県では、平成元年からがん登録事業として地域がん登録を開始、平成11年以降は、がん登録のデータの量と質の充実を図り、対象医療機関を県内全てとし、対象とするがんを全部位に拡充
- 平成22年に国立大学法人弘前大学にがん登録室を設置して以降は、登録件数増などがん登録の精度を上げる取組を重点的に進め、本県のがんの地域レベルでの実態分析に着手できる精度が確保
- がん患者のがんの罹患、転帰等の状況を収集し、がん対策の一層の推進のため、国において、平成28年に法に基づく全国がん登録が開始され、病院等で診断されたがん種や進行度等の情報が国立がん研究センターで一元的に管理されることとなって以降、全国がん登録の届出件数は増加しており、登録情報の内容が充実

<課題>

がん登録情報の利活用の促進が必要

施策の方向性

○ がん登録情報の利活用

[県]

- ・ 本県の実態に即したがん対策を効果的かつ効率的に推進するため、がん登録の意義、内容等についての県民の理解を深めながら、引き続き、がん登録の充実・活用を推進

[大学等学術研究機関、医療機関]

- ・ その特性を活かし、本県のがんに関する研究・分析を実施
- ・ がん診療に携わる医療機関の院内がん登録及び全国がん登録を実施